

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 もも太郎さん喜多方

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏 名 遠藤 憲司

評価完了日 20 年 4 月 17 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員自身が施設に入所した場合を想定し、自分だったらこうしてほしいという思いを会議で出し合い、理念を作り上げた。	毎日日申し送り時理念を唱和し、遂行できるよう努力している。また、職員一人ひとりが理念を続行できるよう定期的に確認し合っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有のため、掲示をするとともに、毎日のミーティングの際唱和し、確認している。	1カ月、3カ月、6カ月の目標を掲げ、職員同士の意識向上に努めている。また、職員全員が目標を達成したか、反省・確認している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方へ月1回生活状況をお便りするとともに、面会の際説明し同意を得ている。 地域の代表の方々へ運営推進会議の開催時、取り組みの内容を説明するとともに、理解していただけるよう努力している。	地域のボランティアの方にも、理念を説明・理解してもらおうとともに、地域の方にも共通理念のもと気軽にお付き合いができるよう、輪を広げて生きたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が散歩している時、挨拶をしたり、通りかかった人に声をかけ会話し、気軽にお茶飲み立ち寄って頂けるよう、声かけを行っている。	ご近所の方に蕎麦うちボランティアを行ってもらい、利用者の方と一緒にご馳走になった。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアの方々の協力で、季節ごとの行事に参加していただき、交流することができた。地区の回覧板を回していただいたり、ごみだしの設置に協力していただいている。(区費の支払いや地区の行事の協力金等を支払いしている。)	ボランティアの受け入れは、これからも積極的にを行い、地区の公民館の活動内容を把握しながら、参加できるものには参加し、地域との交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			広報誌等を発行し、地域の方々に更なる認識をしていただけるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々を、振り返り実行・改善を繰り返し評価を生かして改善に取り組んだ。申し送りノート、薬品の保管、アセスメント等。		質の向上のため、評価内容を真剣に受け止め検討、改善、実施していくため週2回のミーティング時にも繰り返し話し合いを実施していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際にホームを視察していただき、一緒に昼食を食べていただくなど、日ごろの状況を体験して頂き意見等をいただいている。		指導および意見をいただいた内容で実施できることから取り組んでいる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加し、情報交換、自己研修をしているとともに、常に研修の情報を密にし参加するよう心掛けている。		喜多方市グループホーム連絡会に参加・福島県認知症グループホーム連絡協議会参加・会津方部連絡会参加
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している。		後見人との連携
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づき常に注意し業務に携わるとともに、伝達研修を実施している。		相手の立場になり、常に意識を持って話しかけたり、行動するようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等をわかりやすく説明をしている。不安・疑問点については、理解・納得のいくまで対応している。また、各機関と連携をとりながら生活が継続できるよう家族の方へ説明を指している。	信頼関係が成立するよう連携を密にし、気軽に話ができるよう雰囲気作りに配慮している。時間的にも余裕を持つようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別的にコミュニケーションを図る機会を多く持つようにしている。外部者との会話ができるよう配慮している。第三者委員に民生委員さんを依頼しているし、認知症の人と家族会の人にも依頼している。	利用者が意見等を述べやすい関係作りに努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診結果の報告や日常の変化などは、そのつど速やかに報告している。また、月1回個々の暮らしぶりについて文面にて報告をしている。面会時にも報告を行っている。	報告については、速やかに、密に行っている、。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者から苦情があった場合は職員同士情報を共有し、迅速に対応できるよう努めている。苦情受付担当者も重要事項に明記している。	利用者の支払い、面会時必ず意見を聞く機会を設定している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中でアイデアを提案しているほか、毎週のミーティング、全体ミーティングの中でも意見を出してもらうようにしている。	運営者をまじえて定期的に意見交換の場を設けている。また、組織として各委員会があり、そのつど意見交換を実施している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	4交代になっており急な外出や通院付き添いなど家族の方の代行を行っている。	職員は柔軟な対応に協力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、ユニットごとに配属を決めているが、職員の適正、能力、人数などにより難しい面もある。		異動時、利用者の方へ説明、報告実施。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の開催案内を回覧し希望者を募ったり必要と思われる研修には、勤務を調整して参加を確保している。また、外部講師を招き、勉強会を実施している。		栄養教室、リスクマネジメントの勉強会を外部の講師を依頼して実施した。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の組織へ加入し、連絡を密にし機会あるごとにできるだけ参加し、情報交換をしたり、研修会で学習するなど、質の向上につながるよう取り組みをしている。		気軽に相談し、情報交換などで問題が解決できるような体制作りを行ってる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦を図る行事に経費を費やしてくれたり、管理者の悩み・問題等を解決してもらう会合を設定してもらっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得時の援助を積極的に行っている。勤務割作成時の希望休を導入している。		資格取得後の賃金アップ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人ができることについては、していただいている。調理の参加、食後の片付け、朝の掃除とできる方には、一役を担っていただいている。	受容・傾聴を常に心がけ、業務優先でなく、利用者様主体の関係作りに努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	機会のあるごとに、情報交換、共有化を心がけ連携し、本人を共に支えるような関係の維持に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間の制限を設けず、自由に出入りできる体制を行っている。		短期間の外泊の奨励。遠方の家族、面会者の方の施設への宿泊を勧めるなど、絆を大事にしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院へ行かれる方もおります。家族と連携し、馴染みの生活習慣の継続した支援を心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員と一緒に調理に・掃除に参加してもらったり、利用者さん同士で洗濯物をたたんでいただいている。そういった際利用者さん同士が会話ができるよう配慮している。		トイレの譲り合い。利用者さん同士のかかわりでの場面での気配り・配慮
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々電話連絡をしたり、関係機関、知り合い等から情報を得ている。		退去された方へ訪問していただくよう勧めている。年賀状なども出している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援状況から職員同士の情報を密にしている。センター方式の一部を導入し、本人の意向・把握に努めている。		生活歴の把握、飲酒の自由、嗜好品の対応。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶりや、趣味などを本人との会話の中で把握するとともに、必要があれば家族の方からも聞き取りを行っている。		馴染みの関係を確立するとともに、利用者の方との信頼関係をできるだけ早く築けるよう努めている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式一部の導入など、利用者自身が、暮らしやすい生活の場となるよう努めている。		できることの喜びを利用者の方と共感するとともに、有する能力が役割とし喜んでいただけるよう支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを継続的にかつ内容のあるものにし、介護計画に反映できるよう努めている。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者の計画の確認と、改善を職員全員の意見を出し合い進めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケースを記録している。又、申し送りノートで情報を共有しており、介護計画に結びつくよう努力している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防署と協力しながら支援を行っている。今後は地域の文化活動の方にも積極的に協力していただき、いろいろな形で支援をしていきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	随時必要なサービスについて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて、情報交換をして連携体制の再確認を行っている。常日頃の協働は取っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の受診予定表を作成し連絡事項を書くことにより適切な医療を受けられるように支援している。医師によるインフォームドコンセントが職員にも、家族にもある。		受診の際に今までの経過や他科受診等の内容が把握できるよう個人表を作成している。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	飯塚HPとの連携をとっている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会に出来るだけ行くようにしている。又その際に状況を確認するとともに、SWとの連携を図りながら早期退院の話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の段階で事業所の方針を説明し、理解していただいている。その後も状況をみて、話し合い、本人や家族のおもいに配慮しながら方針を全員で共有している。		ターミナルケアについて、標準化されたケアが出来るよう、勉強会等を開いていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医とは、身体状況について連携をとり相談に乗ってもらっているが、重度化や終末期についても共有化をして行く必要がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	地域包括支援センターの活用やサービスの情報提 供、また、今後の生活の注意点などお互いに話し 合い、より良い方向への情報交換を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	言葉使いについては、目標の中でも特に注意する よう掲げると共に、日々意識して対話を実施して いる。		個人情報についての書類は、注意し保管してい る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	個別に対応することにより馴染みの関係を作り、 利用者の方が話しやすい環境を作ることによっ て、より一層安心した暮らしを支援する。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	レクや調理、清掃等の参加に呼びかけはするが、 本人のその時の意思を尊重し、無理じいするこ とはない。		利用者に合わせた職員体制をとっており、本人本 位の対応に心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている（認知症対応 型共同生活介護）	本人の希望を家族に伝え了解のもと本人が望むと ころにいけるよう支援している。		自宅にある洋服を取りにいくなどの対応も行っ ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方や職員に食事の味付けやバランスなどについてアンケートをとり参考にしている。また、職員は一緒にテーブルで食事をしており、配膳・下膳においては、可能な利用者の方とは、一緒に行っている。		要望を聞き、対応している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は選択して頂き提供している。いつでも要求に応じられるようにしている。お酒については、疾患にもよるので、医師の指示のもと、少量は楽しんでいただいている。		嗜好にあわせ外食も実施している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録をとり、排泄パターンに沿って支援している。		現状を維持できるよう心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日に入浴を実施している。希望があれば、夕食後の入浴も実施している。		入浴できない方は、足浴を実施している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人自由のもと支援。就寝時間は決めていない。		寝ることが出来ない状況の際は、居室やホールでおちつかれるまで対応を行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	季節ごとの行事参加。ひしまき作りや、団子さしなど楽しまれ、参加されている。童謡や演歌を歌ったりなども行っている。また、外出などの支援もしている。		ひとり一人の生活歴、趣味を把握し、その人にあった、個別援助が出来るよう取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物に出かけたり、必要物品が購入できるよう、配慮している。お金の所持は、ある人と無い人がいるが、不自由が生じないように配慮している。		預かり金については、報告している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	その日の話し合い、天気次第		外出担当者がいるので、当日の希望でも対応できるようになっている。話し合いの介護をしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	花見、紅葉狩りに手作り弁当を持参し、出かけた。		季節感を肌で感じることの出来る企画を実施していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	希望があればいつでも電話を掛けられるようになっている。		つきに1回ホームから個人個人の生活状況を書いたお便りを送付している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	面会にいらした方には、お茶やお菓子をお出しし、利用者のお部屋でゆっくりお話をさせていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に自由を掲げており、実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーがあり、鳴るたびに確認している。		玄関の近くに来られる利用者さんに声がけしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	巡視をこまめに行い、安全確認をしている。		利用者との距離をあまり空けないようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は職員が管理し誤薬がないようにしている。		利用者の目にふれない、扉のある中で管理している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の声がけの徹底で注意を払っている。 居室をこまめに巡視している。 事故報告書でお互いにリスクを回避するようにしている。リスクマネジメントの研修を実施した。		職員は、利用者の方の姿が見えるよう、背を向けない位置に座り、常に目配り、手配り、気配りを心がけている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、応急処置マニュアルの作成はしているが、定期的な訓練の必要がある。		緊急マニュアルを配布し、各自学習している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難時の搬出方法等の研修を受け訓練を実施。 4月23日地域住民参加のもと避難訓練を実施予定（年2回実施するよう計画。）		近隣の住民の方の更なる協力をお願いすると共に、訓練にも参加いただくよう依頼する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	体調変化や受診後の連絡および説明をおこない、従来どおり生活ができるよう、話し合いのもと対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時にバイタルチェックを行い、異変に気づけるようにしている。異変に気づいたときは、報告し記録や申し送りで情報を共有し、受診を検討している。		体調の変化・異変については速やかに家族に連絡をしている。 受診前・受診後の結果を家族に連絡している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで管理し職員がその都度手渡し、確認をしている。薬のファイルを用意しており、いつでも内容を確認できるようにしている。		薬剤師との連携をとっているため、いつでも質問できる状態にあるので、安心である。また、薬手帳の活用をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給は1日1300ccを目安に飲水をしていただくように援助している。 食事は野菜を中心にバランスの摂れた献立を考え工夫している。		毎日軽い体操を行い腸の働きを良くしている。 朝に水を飲水してもらっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助の必要な方へは支援を行い、自立の方については、自主性に任せている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を個別にチェックしている。食事の時間は制限することなく各自のペースに合わせて食べていただいている。水分は、お茶の時間2回、各食事の際の時間帯で、お出ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホームに入ってからすぐ手洗い・うがいの励行。調理場にはいるときは職員・利用者の方も手洗いと消毒を実施。		予防接種を受けている。感染症についてのマニュアルがある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者による調理器具の消毒。手洗いと消毒の習慣化。また、トイレ介助後、身に着けていたエプロンをはずす。		食材は、毎日必要量のみ購入、賞味期限の確認、居室での食べ物の確認を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、季節ごとに通りすがりの方々にも楽しんでもらえるよう花を植えている。畑には、野菜を植えている。		建物周囲の囲いも低くし閉鎖的にしていない。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間の空間にたたみでくつろげるスペースがあり、生活感のある雰囲気になっている。馴染みの深いものを置き、落ちつきのある居場所を工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では自然と定位置ができています。利用者同士が居室に出入りし、会話をされている。		安全に自由に過ごせることの継続をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小道具、趣味のものなど置いたり、心地よく自分らしく過ごせるように工夫している。		今まで使用していたものを持ち込んでいただいている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の清掃の時間には換気を行うとともに、部屋の温度・湿度の調整は、こまめに行っている。		エアコンのこまめな調整、時間帯での各々部屋の霧吹きを実施している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を配慮し、生活能力の維持、自立性を認識した工夫を支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	心がけ実施している。表示をして今のところは混乱は見られないが、職員の連携体制などまだまだ、工夫が必要である。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には野菜を植え、草取りをしたり、水の世話をしたりと、作業を通じ楽しんで活動をされている。また、ベランダには、プランターに季節折々の花を植え観賞していただいている。		畑にも花壇を作り、喜んでいただきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ②利用者の2/3くらいの ☐ ③利用者の1/3くらいの ☐ ④ほとんど掴んでいない ☐ ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない ☐ ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない ☐ ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない ☐ ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない ☐ ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない ☐ ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない ☐ ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と ☐ ②家族の2/3くらいと ☐ ③家族の1/3くらいと ☐ ④ほとんどできていない ☐ ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない ☐ ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)